

## 「NICO にほんご×こどもプロジェクト」 —オンラインで日本語の先生を全国へ—

松田朋子・山田拓路・平野成美

(NPO 法人青少年自立援助センター 定住外国人子弟支援事業部 YSC グローバルスクール)

### 1. はじめに

本発表は、NPO 法人青少年自立援助センター定住外国人子弟支援事業部 YSC グローバルスクールで行っているオンライン遠隔地日本語教育事業「NICO にほんご×こどもプロジェクト」に関する実践報告である。

全国の公立学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒は年々増加傾向にあるが、支援の有無、質や量などには地域間格差があることが指摘されている。また、無支援状態にある児童生徒の多くが、いわゆる外国人散在地域に暮らしていると見られ、人材や予算が限られる中、ごく限られた数の日本語指導を必要とする児童生徒に対してどのように教育機会を確保するかは積年の課題であった。そのため、当スクールでは、そのような児童生徒に対する日本語教育支援機会拡大を目指して2016年度よりオンラインによる授業運営を開始した。

### 2. 「NICO にほんご×こどもプロジェクト」とは

当スクールは、2010年度より東京都福生市を拠点として、数十カ国にルーツを持つ6才～30代の子ども・若者たちの日本語教育支援を行ってきた。年間100人程度受け入れており、このうちの大多数を占めているのが、日本での高校進学を希望する14歳から18歳の生徒である。本プロジェクトは、WEB会議システム（Zoom）を活用し、遠隔地から当スクールによる教育支援を受講することができるシステムである。実際に福生市の教室で行われている授業を「リアルタイム・双方向」で受講できることが大きな特徴であり、オンラインで受講する生徒は、実際に教室で授業を受けている生徒たちの一員となって受講するという形態をとっている。必要な機材は、インターネット接続が可能なパソコンまたはタブレットのみで、自宅や学校、支援団体等のどこからでも受講することが可能である。

### 3. 本プロジェクトの強みと弱み

本プロジェクトの強みとして、以下の3点が挙げられる。第一に、インターネットにつながるパソコンまたはタブレットさえあれば、場所を問わず受講できる点である。次に、授業はリアルタイムかつ双方向で行っているため、受講者の孤立を防止し、学習のモチベーションが維持しやすいことが挙げられる。最後に、授業は録画することもできるため、録画機能を用いることによって復習することができることである。そのため、何らかの事情により受講ができなかった場合でも、すぐにキャッチアップすることが可能である。このように多くの強みがある一方で、様々な弱点と課題も抱えている。まず、オンラインのみで支援を行うことには限界があり、「地域の人」のサポートが必要不可欠であるということである。支援を必要としている児童生徒が直接本プロジェクトにつながることは難しいと考えられるため、地域の人に最初のステップを支援してもら

う必要がある。また、当スクールは東京都を拠点としているため、地域特有の方言や、地域情報、公立高校進学情報を扱うことには限界がある。そのため、「ラストワンマイル」を支える地域の力をいかに取り込めるかが課題となっている。

#### 4. サポート事例紹介

ここでは2017年以降に高校進学支援を行った4名についての事例を紹介する。

表1：サポート事例

受講者背景	支援前の状況	支援期間・内容	支援の成果・現在の状況(2019年2月現在)
Aさん・Bさん(兄弟) ・千葉県在住 ・2014年春来日 ・フィリピン出身	中学校に在籍し、週に1時間日本語学級で支援を受けていたが、授業についていくことに困難を抱えていた。	2017.8~2018.4 初級後半レベル 初中級レベル 教科学習(国・英・数・社・理)	2018年明けから地域のボランティア団体による支援につなげ、兄弟共に、千葉県内の全日制の高校に合格することができた。
Cさん ・東京都在住 ・2017年冬来日 ・韓国出身	・小学校高学年の時に1年半ほど日本で暮らしていた経歴があったため、在籍している中学校で日本語の支援は受けていなかった。 ・高校進学に関する情報をほとんど持っておらず、「在京外国人生徒対象入試」を知らなかった。	2017.5~10/2018.8~2019.2 日本語初級レベル 初級後半レベル 初中級レベル 教科学習(国・英・数・社・理)	1年目は日本語を、2年目は進学支援を中心に支援を行い、在京枠に関する情報を提供し、全日制の高校に合格することができた。
Dさん ・滋賀県在住 ・2017年春来日 ・ペルー出身	・来日後、アルバイトをして過ごしていた。(ペルーでG10まで修了) ・日本人との関わりはほとんどなく、高校進学のための学習支援を探したが、見つけれず、支援を受けることができないでいた。	2018.5~2018.12 日本語初級レベル 初級後半レベル 初中級レベル 教科学習(国・英・数・社・理)	2018年末で本プロジェクトによる支援は終了し、現在、県立高校受験に向け県の国際交流協会面で面接練習や出願書類作成等のサポートを受けている。

#### 5. オンライン授業を行う上での工夫と課題

2016年に本プロジェクトを開始して以来、オンライン授業を行う上で様々な工夫や改善を行ってきた。本プロジェクトは教室で行っている授業をリアルタイムで配信しているため、講師や生徒の声が入り交じり聞き辛いことがある。そのため、講師はマイクを装着し、オンライン受講者が確実に講師の声を聞き取ることができるようにした。また、教室内にカメラを2台設置し、1台は板書を、もう1台は教室全体を映し出すことによって、オンライン受講者がよりクラス全体を見渡すことができ、クラスの一員であるという感覚を持てるように工夫している。しかし、一方で課題も残されている。授業を行う講師は、実際に教室にいるリアルな生徒と、画面上のオンライン受講者の両方を見て授業を進める必要があるが、そのどちらにも意識が偏らないようにする必要がある。リアルな生徒と比較するとオンラインの生徒は様子がわかりにくいため、積極的にオンライン受講者に声かけをすることによって、状況を把握するように努めているが、講師からは「難しい」という声が多く聞かれた。特に受講生の数が増えると、受講生ひとりひとりの声を聞き取り、様子を把握することはさらに難しくなる。実際に教室で行われている授業をリアルタイムで配信することで、受講生はリアルな生徒と一体感を感じられるという利点もあるが、この点に関しては、今後検討する必要があると考えられる。

付記

共同実践者：田中宝紀(NPO法人青少年自立援助センター 定住外国人子弟支援事業部 YSC グローバルスクール 統括コーディネーター)